

行政と多様な主体（マルチステークホルダー）

の連携・協働

～新潟市アグリパークの実践から～



アグリパーク

the agriculture
experience place,
niigata

マルチステークホルダー・プロセスとは

平等代表性を有する3主体以上のステークホルダー間における**意思決定**、**合意形成**、もしくはそれに**準ずる意思疎通のプロセス**。

〈内閣府国民生活局「マルチステークホルダー・プロセスの定義と類型」(H20.6)より〉

【ステークホルダーの平等代表性】

MSPにおけるあらゆるコミュニケーションにおいて、各ステークホルダーが平等に参加し、自らの意見を平等に表明できるということであり、また、相互に平等に説明責任を負うということ。

【意思決定、合意形成、もしくはそれに準ずる意思疎通】

政策決定から共通認識の形成、実践的な取り組み実施に向けての合意、ステークホルダー間のパートナーシップやネットワークに至るまでを幅広く含むもの。

事例発表の流れ

1 新潟市アグリパークの概要

2 アグリ・スタディ・プログラムの説明及び実際

3 教育ファーム事業における連携・協働

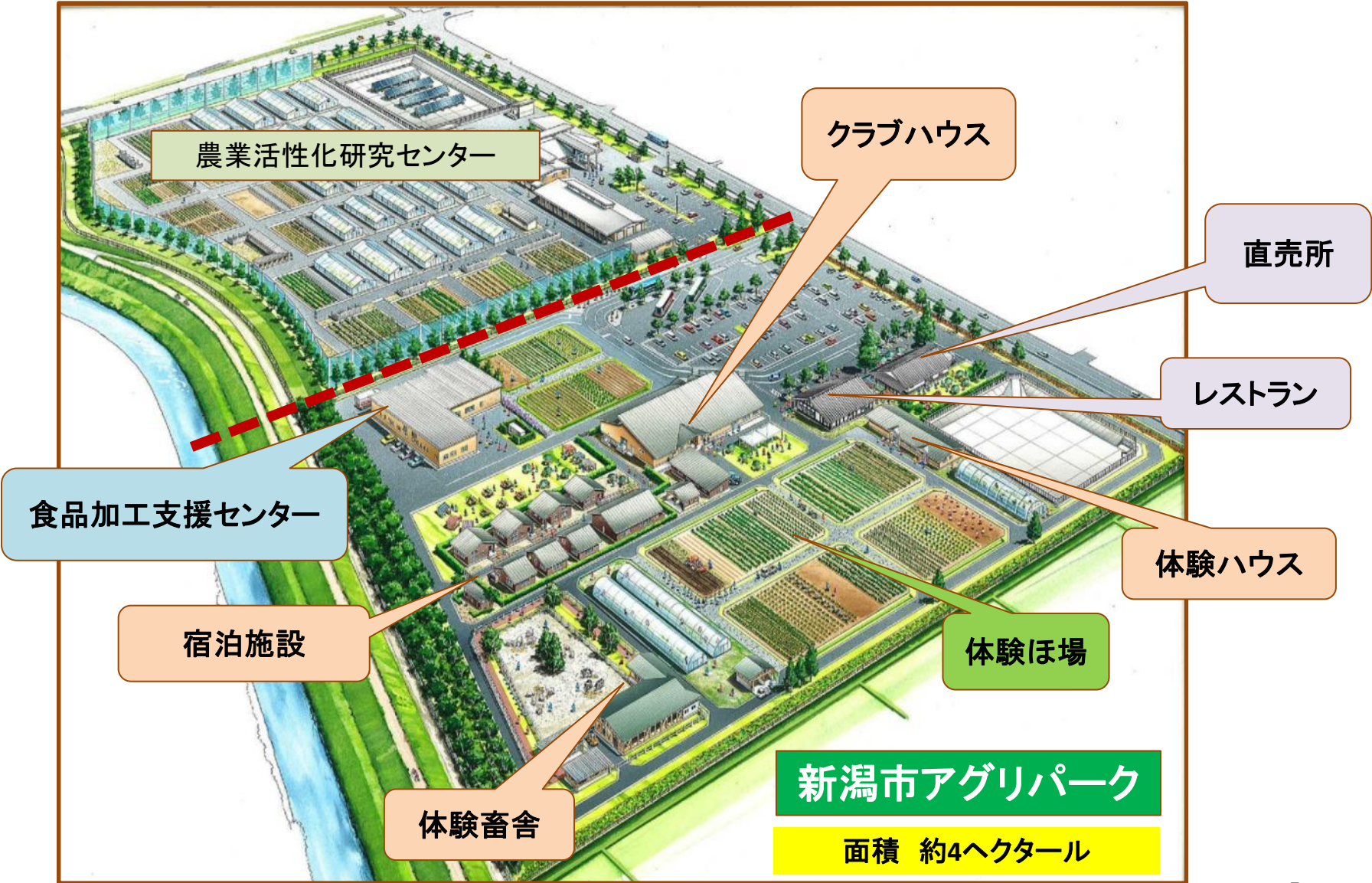
4 成果と課題



オープン日	平成26年6月28日
敷地面積	約4.0ヘクタール (東京ドーム1個分の広さ)
建設費	約19億円 (土地取得・造成費除く)
来場者数 (平成28年度)	19万3837人(内:学校利用1万398人)
運営体制	公設民営(指定管理者制度) <ul style="list-style-type: none">・ 設置者 新潟市(農林水産部)・ 運営者(指定管理者) にいがた未来共同事業体<ul style="list-style-type: none">・ 学校法人国際総合学園(代表)・ 愛宕商事(株)・ (株)新潟ビルサービス・ グリーン産業(株)



アグリパークの主な施設



クラブハウス



- 事務室
- 学習室 100人
- 調理室 80人
- 大浴場 男女各16人

学習室



調理室



大浴場



体験ハウス



- ・ 延床面積 240㎡
- ・ 収容人数 120人
- ・ 設備 ピザ窯2基, 羽釜2基

ピザ窯, 羽釜



体験ほ場



- 面積 約5,000m²
- 各種作付け, 収穫体験を実施
- ビニルハウス4棟



体験畜舎



- ・ 牛2頭, 羊2頭, 山羊2頭
- ・ 糞を堆肥として利用(循環型農業)
- ・ 学習室(40人)

学習室



堆肥舎



その他の施設



- ・ 食品加工支援センター
- ・ 宿泊施設(最大70名宿泊可能)
- ・ 農家レストラン(食堂)
- ・ 直売所

農家レストラン



直売所 にいがた村



食品加工支援センター



宿泊施設



設置目的



- ① 農業体験学習を通じて、**農業に対する理解**を深め、**郷土愛**を育む。
- ② 生産者等に対して、食品の加工等に関する**技術的支援**を行うことにより、**農業の振興**に資する。

〈設置目的を達成するための三つの事業〉

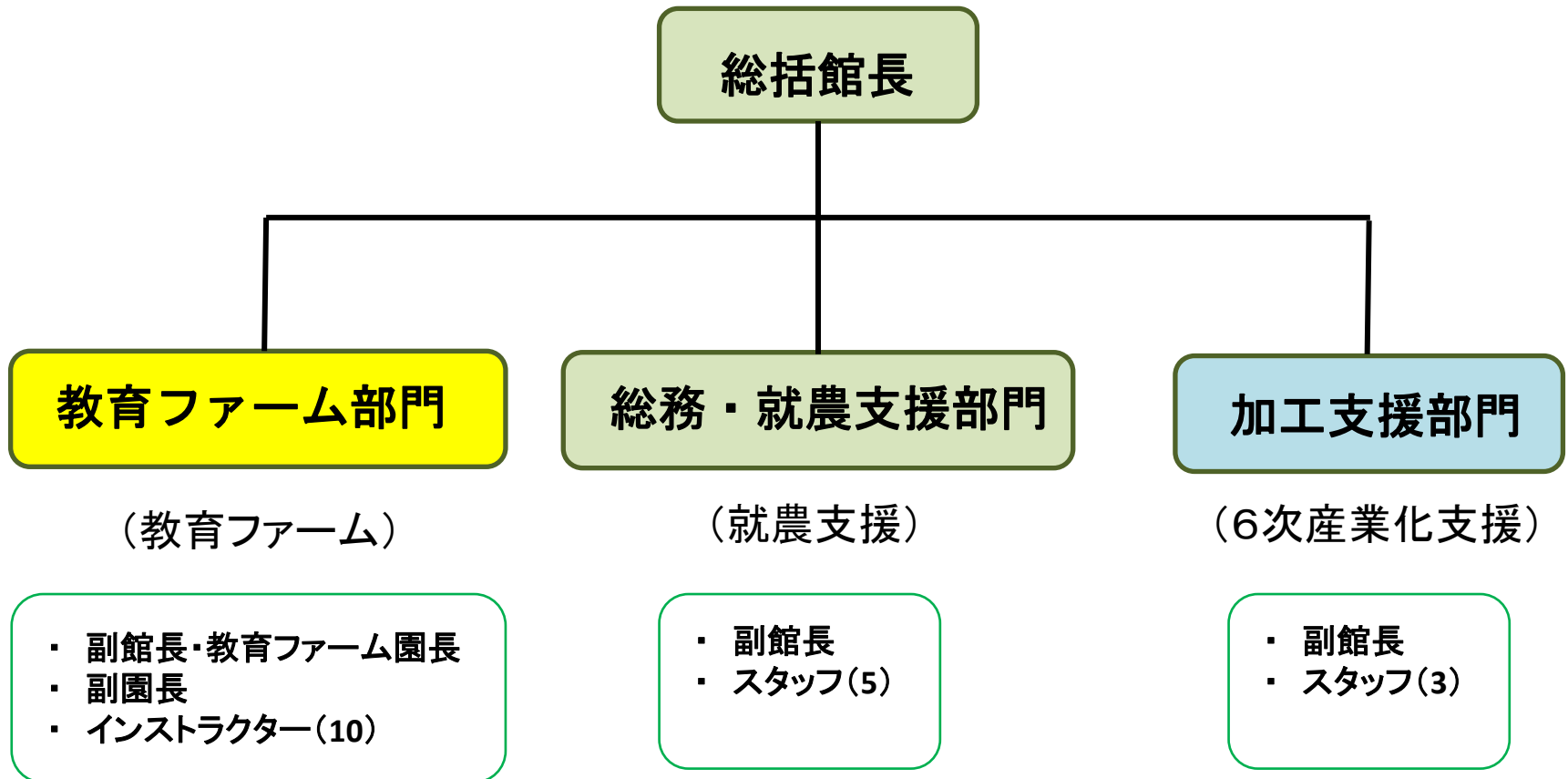
教育ファーム事業

6次産業化支援事業

就農支援事業

新潟市アグリパークの組織体制

〈常勤スタッフ 23名〉



教育ファーム事業について

〈 特徴 〉

- ① **日本初の公立教育ファーム**
- ② 文部科学省が定める**学習指導要領**に基づき、
学校のカリキュラムと連動した**農業体験学習**
=**全て学校の授業**として実施
- ③ **宿泊施設**があり、じっくりと**農業体験学習**

政令市で群を抜く自給率

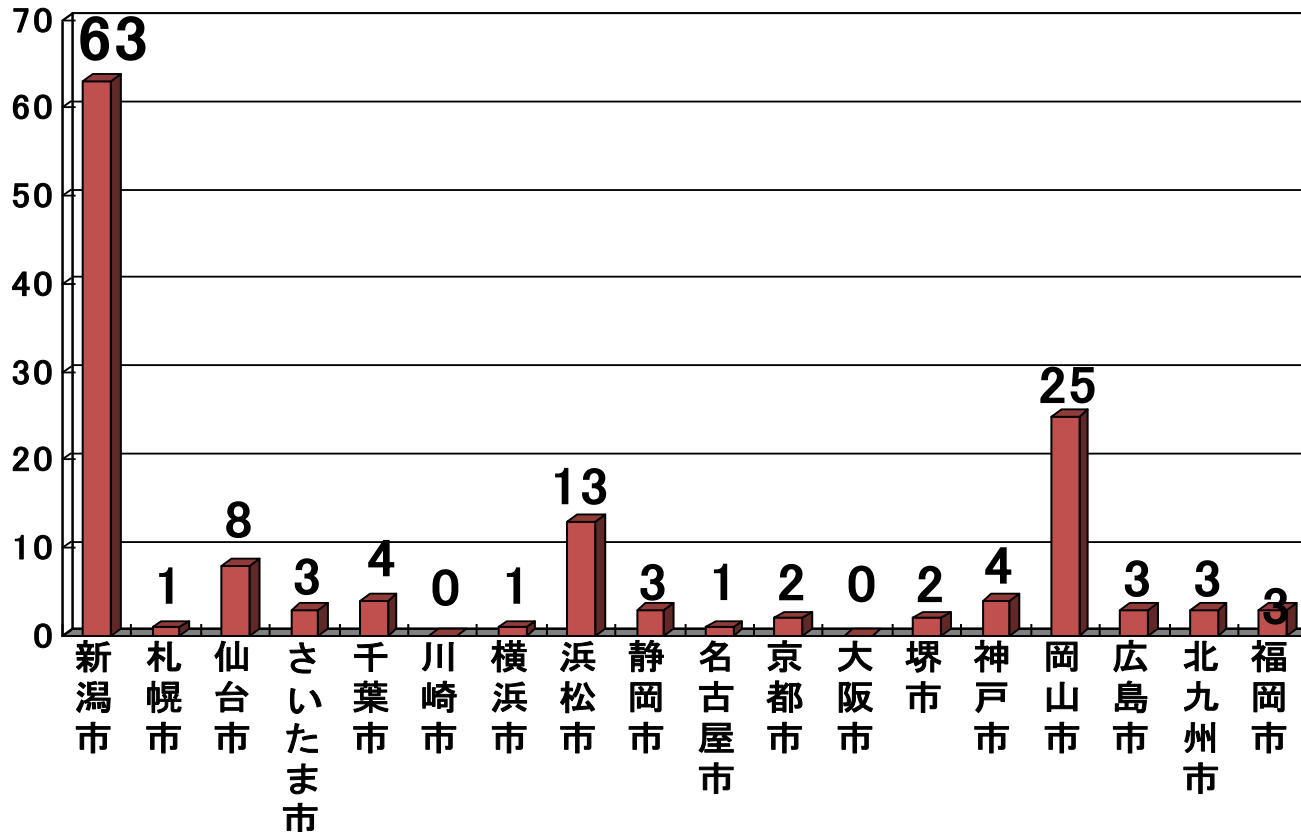
花開く活力、
広がる笑顔、
政令市新潟



総面積: 726.10km²

うち、耕地面積: 336km² (田28,900ha・畑4,700ha)

人口81万人・食料自給率 63%の「田園型政令市にいがた」



政令市食料自給率比較
(平成17年各都市調べ)

アグリ・スタディ・プログラムについて

(Agri-Study-Program 以下, 「ASP」)

〈作成の意図〉

子どもたちが**農業のすばらしさ**に気付き, 命や人との絆を大切にして, ふるさと**新潟を愛し誇りに思う**とともに, 持続可能な社会の実現に向け, **生きる力**を高めるため。

〈ASPの構成〉

幼稚園・保育園編

小学校編

中学校・中等教育学校編

特別支援学校編

適応指導教室編

主要**70**プログラム → アグリパーク**45**プログラム 5

アグリ・スタディ・プログラム (Agri-Study-Program 以下、「ASP」)



ASPの内容 -1-

体験学習 小学校2年 生活

③おやさいマジック (パーティー編)

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★★★

<アグリパーク>

- ・実施期間 6月中旬～7月下旬
- ・1班最大人数 30人 (最大人数120人)
- ・費用 260円/人

目標	自分が育てる (収穫する・見学調査する)	自分が消費する (加工する・調理する・飲食する・作品にする・見学調査する・発表する)
体験活動	<p>おいしい野菜に育てるためには、どんな世話 (工夫) をすればいいのか。 (野菜の観察時)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;"> <p>①野菜観察その1 (自分が育てている野菜と同じ野菜)</p> <p>ぼくのより、実が大きい。茎も太いし背が高い。肥料の違いかな? どうしてですか?</p> <p>肥料だけでななく土を…。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>②野菜観察その2 (野菜オリエンテーリング・収穫)</p> <p>おいしそうだな。私たちの班のピザにトッピングしましょうよ。</p> <p>オクラ初めて見たよ。ツーンと上向いているよね。</p> </div> </div>	<p>おいしいピザをつくるには、どんな工夫をすればいいのか。 (ピザづくり時)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;"> <p>③ピザづくり</p> <p>〇〇さんの育てたピーマンを置いたら、次に。</p> <p>私が〇〇を切っている? いい?</p> <p>仲良くピザ作れたし収穫したの〇〇も入れて美味しいね。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>④お礼のえさやり</p> <p>牛さんのミルクが、チーズになるんだね。おいしいピザが作れるのも牛さんのおかげだね。</p> <p>牛さんありがとう!</p> </div> </div>
学習指導要領上の位置付け	<p>確かな学び プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから</p> <p>○小学校1・2年：生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの野菜とアグリパークの野菜を比較して違いを見付け、自分の野菜をもっと大きく育てる方法を考えることができます。また、自分が育てている野菜以外にも、多様な種類の野菜があること、その野菜の色や形、味など、観察や食する体験を通して、季節を感じ取っていきます。 *生活の内容(7)「動植物の飼育・栽培」 ・自分が栽培した野菜や収穫した野菜を使って、友達と協力してピザ作りをする体験を通して、がんばって育ててきた自分に気付いたり、友達と協力することができるようになった自分に気付いたりします。これにより、これからも意欲的に生活しようとする気持ちを高めていくことができます。 *生活の内容(9)「自分の成長」 	<p>農家の野菜の観察や収穫体験の学びの可能性</p> <p>○野菜を栽培していく際の農家の工夫や努力に関連付けて学習を構成していくならば…</p> <ul style="list-style-type: none"> *小学校5年社会(2)「我が国の農業や水産業(食料生産)の様子と国民生活との関連」ウ *小学校3・4年社会(2)「地域の生産や販売に携わっている人々の働き」イ <p>○そのほか、循環型の農業などをテーマに学習活動を構成するならば総合的な学習の時間に、収穫、調理、えさやり、堆肥作りなど、一連の活動を追究の場面などに、活動を位置付けていくことができます。</p>

ASPの内容 -2-

実践例 「おやさいマジック (パーティー編) 」

1 関連する単元名 小学校2年 生活 「わたしたちのやさしいばけ」(16時間)

2 関連する単元の目標

- 野菜を育てる活動を通して、それらの育つ場所、変化や生長の様子、生命をもっていることに気付くとともに、野菜を大切に育てる気持ち、ありがたくいただく気持ちをもつことができる。
- 友達と自分の役割を果たしながら仲良く活動し、意欲的に生活することができる。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け

(1) やさいをそだてよう (1時間)

- 知っている野菜、育てたい野菜について話し合う。

(2) さあ、そだてるぞ (3時間)

- 個々に育てる野菜を決め、野菜栽培への気持ちや思いをカードに書く。
- 野菜に詳しい人(「野菜の先生」)に教わりながら、土作りや畑の耕し作業を行う。
(※アグリパークで土作りを行う場合:「おやさいマジック(命の源、土作り編)」参照)
- 野菜の苗や種を植える。

(3) 大きくそだて (5時間)

- 野菜の世話をし、その様子をカードに書いたり報告し合ったりする。
- 野菜の世話、病気や虫など野菜の心配事について「野菜の先生」に話を聞く。
- 野菜(植物)も自分と同様に生長することや生命があることを、野菜の世話カードに書いたことをもとに整理する。

(4) アグリパークでやさいを見よう、食べよう (6時間)

学習課題例

おいしい野菜に育てるためには、どんな世話(工夫)をすればいいの。(野菜の観察時)

おいしいピザをつくるには、どんな工夫をすればいいの。(ピザづくり時)

アグリパークでの体験活動 <4時間>

①学校産とアグリ産→②野菜オリエンテ→③野菜の収穫体験→④調理食味体験→⑤えさやり体験の野菜食べ比べ

まとめのメモ例

「トマトは水やひりょうをやりすぎない、ナスは朝夕たっぷり水をあたえる。」(野菜の観察)

「やくめとじゅんぱんをまもる。じゅんぱんにきったやさいをおく。」(ピザづくり時)

(5) できた、わかった、もっとやってみたい (1時間)

- 表現してきたものをもとに、活動を振り返り、がんばってきたこと、できるようになったこと、分かったこと、もっとやってみたいなどを話し合う。⇒秋植え野菜の栽培へつなげる。

●野菜の生長や収穫に期待をもたせながらアグリパークでのピザ作りにも期待感をもたせながら野菜の世話活動を進める。

体験の前に

体験の後に

4 本時のねらい

よりよい野菜を収穫するための野菜の育て方を指摘することができる。
友達と協力し合ってピザを作ることができる。

5 本時の展開例 (180分=4時間)

学習活動	教師(T)・指導員(I)・子ども(C)	指導上の留意点
①学習課題をつかむ (10分)	T:学習課題を確認し、インストラクターを紹介する。 I:野菜畑の観察・収穫、ピザづくり、えさやりの活動の一連の活動と注意事項を説明する。	・活動の流れと目標を示し、活動に見通しをもたせる。
②自分が育てた野菜と同じ野菜を観察し、違いをとらえる (30分)	I:子どもたちに野菜を観察させ、アグリパークにある野菜と子どもたちが育てた野菜との違いについて問う。 C:ほくのトマトは、こんなに大きくない。茎も太いし丈背も僕より高い。上の違いかな? C:わたしの実こはびびがあるけど、ここには全然ない。 I:児童の疑問に応じて、よりよい収穫のための世話の仕方を説明する。 C:なるほど、水のやり方や根っこを広げるように、工夫がいろいろだね。肥料だけでないの。	・多様な感覚を働かせて観察させるようにする。 ・同じこと、違うことを整理して表に示すなどの工夫をして、子どもたちがとらえたことを分かりやすくする。 ・野菜畑ごとに専門家を配置する。 ・疑問にすぐに答えるのではなく予想させたり考えさせたりする。
③アグリパークにある様々な野菜の種類や特徴をとらえる。ピザ作りに必要なと思う新鮮な野菜を探して収穫する (30分)	I:野菜オリエンテリングカードを配付し、クイズ等に答えながら、畑を巡ることを説明する。 C:このとげは何のためにあるのかな? C:まっすぐな形の方がおいしいのかな?それとも形味に関係ないのかな。 C:とげは、動物とかに食べられないためなんだね。 C:新鮮でおいしい◇◇が、分かったよ。みんなでもよく見て、一番いいのを探ろう。	・野菜畑ごとに専門家を配置し、児童の疑問に答えるとともに、クイズの回答、説明をできるようにする。 ⑥野菜をいたためたり勝手にとったりしない、畑の中を走らないことなどを確認する。
④班で協力してピザを調理し食べる (60分)	I:ピザ作りのねらいや役割分担について説明する。 I:包丁など基本的な道具の扱い方や衛生面等についてしっかりと指導する。 C:初めてだけど注意しながら、ほくにもできそうだ。 I:1個ずつ切った野菜を順番にトッピングするやり方はすごくいいね。 C:順番に置くやり方を発明してよかったなあ。 C:がんばって育ててきたから、おいしいいいね。	⑧安全の徹底のため、班ごとに補助者を付けたリ、視覚的な教材を準備したりする。 ・協力して調理や後片付けをできるように支援したり、具体的にほめたりする。
⑤感謝の気持ちで、えさやりをする (50分)	I:肥料にかかわるサイクルについて説明し、野菜のお礼分けをして感謝することを確認して、エサやりを行わせる。 C:牛さん、ほくの作った野菜食べてね。ありがとう。 T:まとめのメモを書かせ、発表させた後、インストラクターへお礼を述べる。	・「おやさいマジック(命の源、土作り編)」を実施していない学校は、⑤のえさやりを省略する。

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
生活への関心・意欲・態度	・野菜に興味をもって観察したり、すすんで収穫したりしている。 ・野菜の生長に役立ててくれた牛や、お手伝いしてくれた人に感謝の気持ちをもって接している。 ・友だちと考えを出し合っておりおいしいピザを作る。	活動の様子 振り返りカード
活動や体験についての思考・表現	・ピザづくりに必要な量の野菜をよく観察しておいしいものを選び、収穫している。	活動の様子 振り返りカード
身近な環境や自分への気付き	・自分の野菜とアグリパークの野菜とを比べて生長や味の違いなどに気付く。 ・自分たちの育てた野菜を味わい、これまでがんばって育ててきた自分の良さや成長などに気付く。	活動の様子 振り返りカード

ASPで大切にしていること

五感で学ぶ

「観る」・「聴く」・「触る」・「嗅ぐ」・「味わう」

アグリ魂で学ぶ

「育てる」(植える・世話する・採取する・収穫する)と「消費する」(加工する・調理する・飲食する・作品を作る)を一体化し、調和させて学ばせること。

働くことで学ぶ

汗を流して働くことを大切にした学習

専門家に学ぶ

農業や加工に関する専門家に出会う

実践事例1 ～おやさいマジック(パーティー編)



- ・ 野菜の観察
- ・ オリエンテーリング
- ・ 野菜の収穫
- ・ ピザづくり



キュウリのもんだい

新鮮なキュウリの表面に

はトゲがびっしり、この役目は?

① 食べられないようにするため

② 武器に使ってもらうため

③ 動物にくっついて
運んでもらうため



映像1-「おやさいマジック(パーティ
編)」短縮版.mp4



実践事例2 ～そうだったの！牛乳に秘められた命の恵み～

- 牛乳に関するクイズ
- 搾乳体験
- 牛乳の試飲
- 酪農家の話



映像2-「牛さんありがとう」幼稚園短
縮版.mp4

実践事例3 ～羊の見学とウイナー作り体験～



- ・ 羊の見学とふれ合い
- ・ ウイナー作り
- ・ 試食





実践事例 ～その他の事例～



映像3-「中学校ツアーズ」ダイジェス
ト.mp4

アグリパークで意識して取り組んでいること

郷土愛を育む

- ・栽培している多くの野菜は、新潟の特産品
- ・収穫・食味体験で、新潟の食材のおいしさを実感
- ・新潟の基幹産業(農業)への理解を深める

食と命の関係を知る

- ・農業は、生きていくために必要な産業
- ・食事と野菜や家畜の生命との関係を知る
- ・「いただきます」・「ごちそうさま」

持続可能な社会の担い手を育成する

- ・循環型農業の実践と理解
(牛ふん堆肥作り・野菜くず堆肥作り)

社会性を育む

- ・社会人としての基礎的な実践力

アグリ・スタディ・プログラム推進体制

〈設置〉

〈プログラム提供〉

新潟市(農林水産部)



新潟市教育委員会

ASP総合推進会議

(6名:年1回)

(小学校長会長, 中学校長会長, 小学校教育研究会会長, 中学校教育研究会会長,
特別支援学校代表校長, 小中学校PTA連合会会長)

ASP推進委員会

(12名:年3回)

(小学校は, 各区から選出された小学校長, 中学校は, 体験学習に識見を有する中学校長)

評価・サポート委員会

(5名:年4回)

(ASPに関する識見を有する学識経験者, 小中学校PTA連合会役員, 小中学校長)



アグリ・スタディ指導主事

〈運営〉

指定管理者 「にいがた未来共同事業体」

ASP作成までの経緯

作成期間

平成24年12月～平成26年1月（約1年間）

- ① 小学校編 H24.12～H25.7〈検討会10回〉
- ② 中学校編 H25.7～H26.1〈検討会4回〉
- ③ 特別支援学校編 H25.9～H25.12〈検討会3回〉

作成者

新潟市・新潟市教育委員会

執筆者

23名

市教育委員会関係者6名（指導主事等）、農林水産部職員1名、校長3名、教頭1名、教諭12名

視察

- ① フランス視察 H24.10（10名）
* ナント私営教育ファーム、パリ・リール市営教育ファーム
- ② 「伊賀の里モクモク手づくりファーム」視察 H25.1, H25.9（2回）

パイロット校

市内8区の小学校から13校選出
* プログラムをパイロット校で実践⇒プログラムの修正

新潟市によるASPに関する支援

財政的支援〈農林水産部〉

- ① **宿泊費・交通費の助成**
 - ・ アグリパークでの宿泊費は全額市が助成
 - ・ 交通費は、各学年1学級につき1回3万円を上限に3回まで助成
- ② **専門家・補助者の謝金負担**
 - ・ ASPにおける専門家・補助者にかかる経費は全て市が負担
- ③ **アグリ・スタディ指導主事の配置**

学校への周知を図るための支援〈教育委員会〉

- ① **教員体験学習研修(年4回)** 全小・中・特別支援学校から1名出席
- ② **教員体験学習宿泊研修(年1回)** 対象: 宿泊予定学校の教員及び希望する教員
- ③ **成果発表会・次年度利用説明会(年1回)** 全小・中・特別支援学校から1名出席
- ④ **初任者研修**をアグリパークで実施(4回に分かれて実施: ASPの説明及び実践)

アグリパークにおけるASPの充実に向けた取組

学校との情報共有

① 事前打合せの充実

- ・ 利用日の3ヶ月前までに提出していただく「活動計画書」を基に、利用日の2ヶ月前までにアグリパークのインストラクターと引率教員とで打合せを行う。
- ・ 打合せには、アグリ・スタディ指導主事が同席する。

② アレルギー児童等への対応

- ・ 事前打合せ後に「動物・食物アレルギー確認書」を提出していただき、対応について協議する。

研修の充実

① インストラクター研修

- ・ アグリ・スタディ指導主事を講師として、「ASPの理解と実施上の留意点」・「事前打合せのポイント」等の研修、インストラクター業務の実際場面での指導
- ・ 食肉センター・牛乳工場・果樹農家等への現地研修

② 市と合同の研修会

- ・ 評価・サポート委員会と「アグリパークを語る会」の実施
- ・ アグリパートナーズ(補助者)研修会の実施

アグリパークにおけるASPの成果と課題

成果

① 利用する**学校の増加**

- ・ H26年度(131校)⇒平成27年度(168校)⇒平成28年度(189校)

② 学校アンケートで**高い満足度**

- ・ ねらいの達成(100%), 一つ以上の学び(一つ以上91.5%), 満足度(100%)
- ・ 専門家の話を直接聞くことができた(75%), 教育活動が充実した(70%)
- ・ 食に関する関心が高まった(62%), 学校でできなかった体験ができた(61%)

課題

① **冬期間のプログラム開発**

② **インストラクターの資質向上**

③ **提示資料の充実** (対象学年等に合わせた資料の開発)

④ **大規模校への対応**

行政と多様な主体との連携・協働の考察 -1-

1 ASP作成に向けての協議の場

定例会の開催

【開園前】 メンバー： **市教育委員会・農林水産部・指定管理者**（月2回程度開催）

- 〈内容〉
- ・ASPの内容について協議
 - ・ASPの運用（利用受付期間，体験料等）について協議
 - ・施設・設備の課題について協議

【開園後～平成27年3月（月1回）】

- ・ASPの運用上の課題について協議

【平成27年4月～】 メンバー： **市教育委員会・農林水産部・アグリ・スタディ指導主事**

- 〈内容〉
- ・ASPの会議・委員会報告を基に，ASPの運用について協議
 - ・教職員研修会，農林水産部事業についての報告・協議

2 ASPの運用における連携・協働

農林水産部予算による**学校支援**（宿泊費・交通費助成）

アグリパークを会場にした，ASP理解のための**教員研修**の実施

農林水産部・教育委員会と指定管理者との随時**協議の場**の開催

成果

1 目的の共有が図られる。〈最も重要〉

2 それぞれの役割分担が明確になる。

〈農林水産部〉 指定管理者との調整, ASPの財政的支援

〈教育委員会〉 ASPの作成・管理, 学校に対するASP理解

〈指定管理者〉 ASPの実践

3 課題の早期解決が図られる。

それぞれの立場で課題を出し合い, 協議をして改善を図ることができる。

課題

1 行政担当者の異動による「継続性」(人のネットワークの重要性)

2 目的の具現化に向けた「創造性」(マンネリ化の防止)



ご静聴 ありがとうございます。